

# 中国における「少女妊娠」をめぐる現実と課題

## —性的自己決定の観点から—

LI Hongyan

2018 年、中国の生放送アプリ「快手」で少女ママの動画が流れ、大きな話題となった。本研究の目的は、中国では社会問題として批判される「少女妊娠」を改めて性的自己決定の視点から検討することにある。

本研究では、18 歳以下で妊娠することを「少女妊娠」と定義する。中国における女性運動を含めた女性の性に関する歴史の変遷を踏まえたうえで、事例研究を通じて、「少女妊娠」の実情を明らかにする。妊娠した経緯やその後の選択をたどる。これまでの性的自己決定に関する先行研究は、ある行為が性的自己決定の実現か否かという結果のみに注目していたのに対して、本研究では、選択を重層構造という観点からとらえ、選択のプロセスに注目する。ここに本研究の独自性がある。

第 1 章では、まず性的自己決定にかかわり、「性的自己決定権」と「性的自己決定能力」に関する先行研究を検討した。宮台、若尾らの議論に基づき、論点を整理した。また、「性的同意年齢」を中心に少女の性的自己決定を検討した。

第 2 章では、中国の女性史を紹介した。社会や家庭の中での女性の位置づけに対する女性運動の展開の中で、中国における性的自己決定がどのように取り入れられていったのかを明らかにした。または、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の視点から中国における性的自己決定の受容の特徴を明らかにした。

第 3 章では、「少女妊娠」の定義を確認するとともに、「少女妊娠」世界的な状況と中国の状況を説明した。

第 4 章では、調査対象者の A さんと B さんの「少女妊娠」について、妊娠するまでのライフヒストリーと妊娠発覚後の選択という 2 つの段階を分けて、彼女たちの性に関する選択の経緯をまとめた。

第 5 章では、選択に至るまでの性的自己決定の重層構造に基づき、A さんと B さんの妊娠に

至るまでのプロセスと選択と妊娠後のプロセスと選択を分析した上で、現代中国の少女妊娠と性的自己決定の現状について、以下の3点を明らかにした。

- ①都市部と農村部での養育環境の違いが選択に影響を及ぼしている
- ②現在の中国社会では、少女妊娠・出産に対するスティグマが依然として強い
- ③子どもを産むか産まないか、いつ、何人産むかは個人やカップルの権利—「リプロダクティブ・ライツ」であると言えるが、こうした権利の実現は社会の状況によって大きく左右される

結論としては、中国の少女の性は権利としては十分承認されておらず、「少女妊娠」の結果—「産む」・「産まない」についての選択は、家族関係、社会風俗、利用できる資源、社会政策などに左右されていることを明らかにした。または少女の性的自己決定を肯定しながら性にかかわる自己決定を推進するために、少女たちに性にかかわる知識と情報を充実させる方法、つまり性教育と、少女妊娠の当事者に対する学業やキャリア形成と子育ての両立を支援する方法を今後の課題とした。また、大学院入学以降、「性的商品化」というテーマに触れ、関心を持っているが、本稿では深めることができなかったため、今後の自分自身の研究課題としたい。